

氏名	殿山 勇次
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1538号
学位授与の日付	平成8年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Detection of Epstein-Barr virus RNA and related antigens in non-neoplastic lymphoid lesions. (非腫瘍性リンパ組織病変におけるEpstein-Barr virus RNAと関連抗原の検索)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 新居 志郎 教授 難波 正義

### 学位論文内容の要旨

非腫瘍性リンパ組織病変におけるEpstein-Barr virus (EBV)の感染状態を解明するために、*in situ* hybridization (ISH)でEBER-1とBCRF-1の発現を、免疫組織化学でLMP-1とZEBRAの発現を非腫瘍性リンパ組織病変144例について調べた。EBER-1に対するISHでは144例中31例(22%)にEBER-1陽性細胞が検出された。EBER-1陽性細胞は、非特異的リンパ組織過形成では49例中4例、膿瘍形成性肉芽腫性リンパ節炎(AFGL)では20例中16例、菊池病では25例中5例、伝染性単核球症では3例中3例が陽性であった。LMP-1は124例中6例(4.8%)で発現がみられた。EBER-1陽性細胞例31例の内、6例(19%)にLMP-1陽性細胞がみられた。LMP-1およびZEBRA陽性症例では、陰性症例と比較してEBER-1陽性細胞が有意に多く認められた。BCRF-1は11例中4例で発現が認められた内訳は、AFGL3例中2例、菊池病2例中1例、異型リンパ組織過形成1例であった。EBVは広く蔓延しているウイルスであるが、AFGLのような破壊性の炎症によってEBV増殖サイクルに入るのに適した環境が作り出され、EBVが活性化されうるという可能性が示唆される。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て、完成したものである。

### 論文審査結果の要旨

本研究は非腫瘍性リンパ組織病変144例について、Epstein-Barr virus (EBV)の感染状態をマーカーを用いて*in situ* hybridizationと免疫組織化学で調べたものである。その結果、EBVは広く蔓延しているウイルスであるが、膿瘍形成性肉芽腫性リンパ節炎のような破壊性の炎症によってEBVが増殖サイクルに入るのに適した環境が作り出され、EBVが活性化されうるという可能性が示唆された。本研究はEBVの人体における生活環に関して重要な知見を得たものと結論される。よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。